

上関町長が調査容認

中間貯蔵施設 住民不在に厳しい批判

中国電力が山口県上関町の臨時議会の冒頭、「私としては受け入れる」との判断を示し、町として調査を受け入れると報告しました。3人の町議が反対し、「判断する前に住民説明会をす

うち7人が調査に賛成しました。うち7人が調査に賛成しました。うち7人が調査に賛成しました。

清水康博町議(32)は中間貯蔵施設による地域振興を批判し、「約40年前に(上関町に)浮上した原発計画が地域振興になっているか。町にとって一番大切な住民が分断された」と指摘。「原発に反対の父を持つ(私自身、中学生のころ、あいさつしてもしてくれない人がいた」と明かし、「子ども

たちに同じ経験をさせてはいけない」と訴えました。2日に中国電の申し入れを受け、わずか2週間余りの判断に、「町の都合でなく、国や電力会社の都合で進んでいるのではないか」と指摘しました。

秋山鈴明町議(30)は住民の賛否は割れていると、あきらめの声すら聞かせる。住民があきらめなきやいけぬような町に明るい未来はあるか?と住民不在の町長らの対応を批判。「声なき声を丁寧で、親切に拾えるような民主主義的な町であってほしい」と求めました。

山戸幸町議(46)は「住民の分断を生む財源確保策は町づくりに害与しない」と指摘。「町長は判断を保留し、住民の向き合いべきだ」と述べました。



臨時議会後、反対した3人の町議の報告を聞く町民ら=18日、山口県上関町役場前

貯蔵施設調査強引だ

山口・上関町議会 傍聴の町民怒り

中国電力から使用済み核燃料の中間貯蔵施設の建設に向けた調査の申し入れを受け、山口県上関町の西哲夫町長が判断を示す臨時議会が開かれた18日朝の役場前。西町長が駐車場に現れると、傍聴に集まった多くの住民から「強引過ぎるぞ」「勝手に決めるな」などの怒声が相次ぎました。

中国電力から使用済み核燃料の中間貯蔵施設の建設に向けた調査の申し入れを受け、山口県上関町の西哲夫町長が判断を示す臨時議会が開かれた18日朝の役場前。西町長が駐車場に現れると、傍聴に集まった多くの住民から「強引過ぎるぞ」「勝手に決めるな」などの怒声が相次ぎました。

臨時議会は質疑応答の機会もなく、約1時間半で終了。西町長は全議員の意見を聞いたものの、閉会あいさつは「半分ほどで、改めて「中国電力の申し入れを受ける」と語ったくらいでした。

傍聴した町内の国弘公敏さん(68)は西町長の強引な進め方を「言語道断。強権政治だ」と批判し、「推進側の議員もシナリオ通りの発言しかしていない」と指摘。「50年後に責任を取れない今の人が、ちが目先のお金のためだけで決めてはしくない」と語りました。

町内の30代の男性は「結局、町民の意見を聞く場はなく、議員にも答弁せずに一方通行だ」と述べました。日本共産党の赤松義生・平生町議と長友光子・柳井市議、藤本一規町議が傍聴などに駆け付けました。

「た。町民はいないよなやり方だ」と批判しました。近隣の周防大島町から「声を上げたい」と来た女性(49)は「説明が足りない。上関町だけで決めている問題だとは思えない」と述べました。